令和７年６月１６日
教育課程企画特別部会
資　料　１　－　２

「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時実現に向けて

横浜市立獅子ケ谷小学校

2025年６月

横浜市立獅子ケ谷小学校

1979年　横浜市立旭小学校の分校として始まり、
この年4月に創立

2020年　コロナ禍が始まり、休校措置開始
学校再開から40分授業開始

2021年　横浜市の「持続可能な学校のあり方を
探る実践モデル校」に指定

2023年秋　リーディングDX校指定

学年	学級数	児童数
1	4	106
2	4	112
3	3	98
4	3	103
5	4	112
6	4	122
個別支援学級	9	65
計	31	718

横浜市立獅子ケ谷小学校
日課表（4～6年生）

40分午前５時間制を導入しつつ日課の見直しを行い、
６校時の日でも15時前に児童が帰宅。
⇒教育の質の向上に向けた研究等の時間を確保

【教育課程の編成の考え方】 ※R６計画

①総授業日数 **206日（6年：202日）**
※夏季休業期間：７月22日～８月26日
※年間授業可能時数：1068コマ分（45分換算）

②年間の総授業時数（コマ数）の考え方
1148コマ/40分 （1020コマ分/45分換算）

④週当たりの総授業時数： 27.5コマ（45分換算）

⑤児童会・クラブ活動、学校行事の合計：48コマ（45分換算）
※うち学校行事は 24コマ（45分換算）

各教科等（1020）＋学校行事等（48）
※年間授業可能時数の範囲内

登校時間　8：05～8：15

		月	火	水	木	金
8:20		朝の会	朝の会	朝の会	朝の会	朝の会
8:30	1	40分	40分	40分	40分	40分
9:10		5分				
9:15	2	40分	40分	40分	40分	40分
9:55		中　休　み　（10分）				
10:05		5分				
10:10	3	40分	40分	40分	40分	40分
10:50		5分				
10:55	4	40分	40分	40分	40分	40分
11:35		5分				
11:40	5	40分	40分	40分	40分	40分
12:20		給　食　（45分）				
13:05		昼休み（15分） 13:05～13:20	そ う じ（10分） 13:05～13:15	昼休み（15分） 13:05～13:20	そ う じ（10分） 13:05～13:15	昼休み（15分） 13:05～13:20
		5分	昼休み（内） （25分） 13:15～13:40	5分	昼休み（外） （25分） 13:15～13:40	5分
		そうじ（20分） 13:25～13:45	5分	そうじ（20分） 13:25～13:45	5分	そうじ（20分） 13:25～13:45
13:45	6	40分	40分	40分	20分 帰りの会 14:05～14:15	40分
14:25		20分	20分	帰りの会 14:25～14:35	委員会 14:15～ 14:55 クラブ 14:15～ 15:15	20分
14:45		帰りの会	帰りの会			帰りの会
14:55						
15:00						
16:00						
16:30						

横浜市立獅子ケ谷小学校

「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時実現に向けて
令和４年度～令和６年度の取組

【持続可能な学校】

- **午前5校時40分授業、午後1校時+20分モジュール**
  ⇒ 高学年 14:15～14:55下校　低学年 13:35～14:35下校
- **教職員の出退勤時刻(8:15～16:45 →8:00～16:30)**
  ⇒ 児童の登校前に職員が出勤
- **休憩時間前に会議等の時間を設定**
  ⇒ 職員会議(14:35下校)　授業研究会(13:35下校)
- **会議の精選**
  ⇒ 定例会議は月1回の教務会・職員会議のみ
- **クラウドの活用**
  ⇒資料はクラウドに保存、打合せは校務支援システム(ミライム)を活用
  ※令和6年度よりMicrosoft Teamsも活用
  家庭と学校の連絡システム(すぐーる)で情報発信・アンケート・調査を実施
- **ノー残業デー(毎週水曜日)**

業務改善

×

意識改善

● は令和5年度から実施

- **働き方研修**
  ⇒ 働き方改革の目的・現状・目標値を共有
- **働き方改革の進捗・成果を共有**

横浜市立獅子ケ谷小学校

「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時実現に向けて
令和４年度～令和６年度の取組

【質の高い学び】

・**40分授業と20分モジュールを活用した探究的な学び**

①探究的な学びへの活用

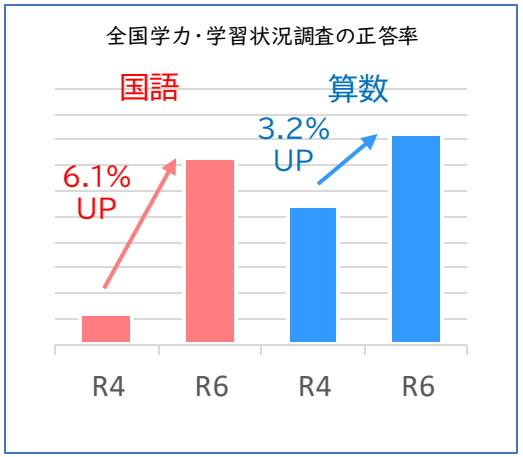
合計60分（40分+20分）授業による学習活動の充実
午前5校時40分授業による集中力の向上

②基礎学力の定着・AIドリルの活用

20分モジュールを用いた基礎学力の定着

地域に出かけて行う探究活動の充実

端末を活用した個に応じた基礎学習の充実



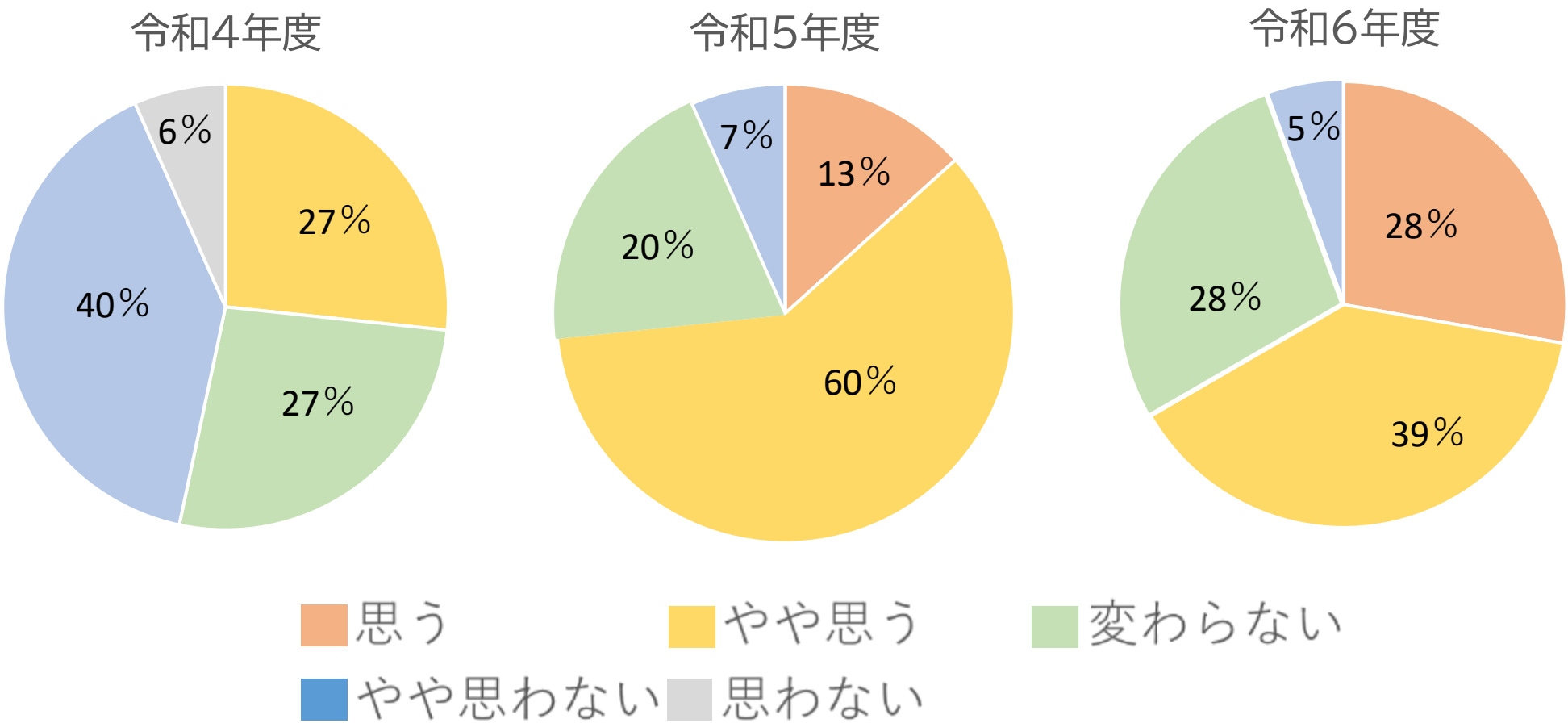
・**子どもの探究的な学びを支える授業準備**

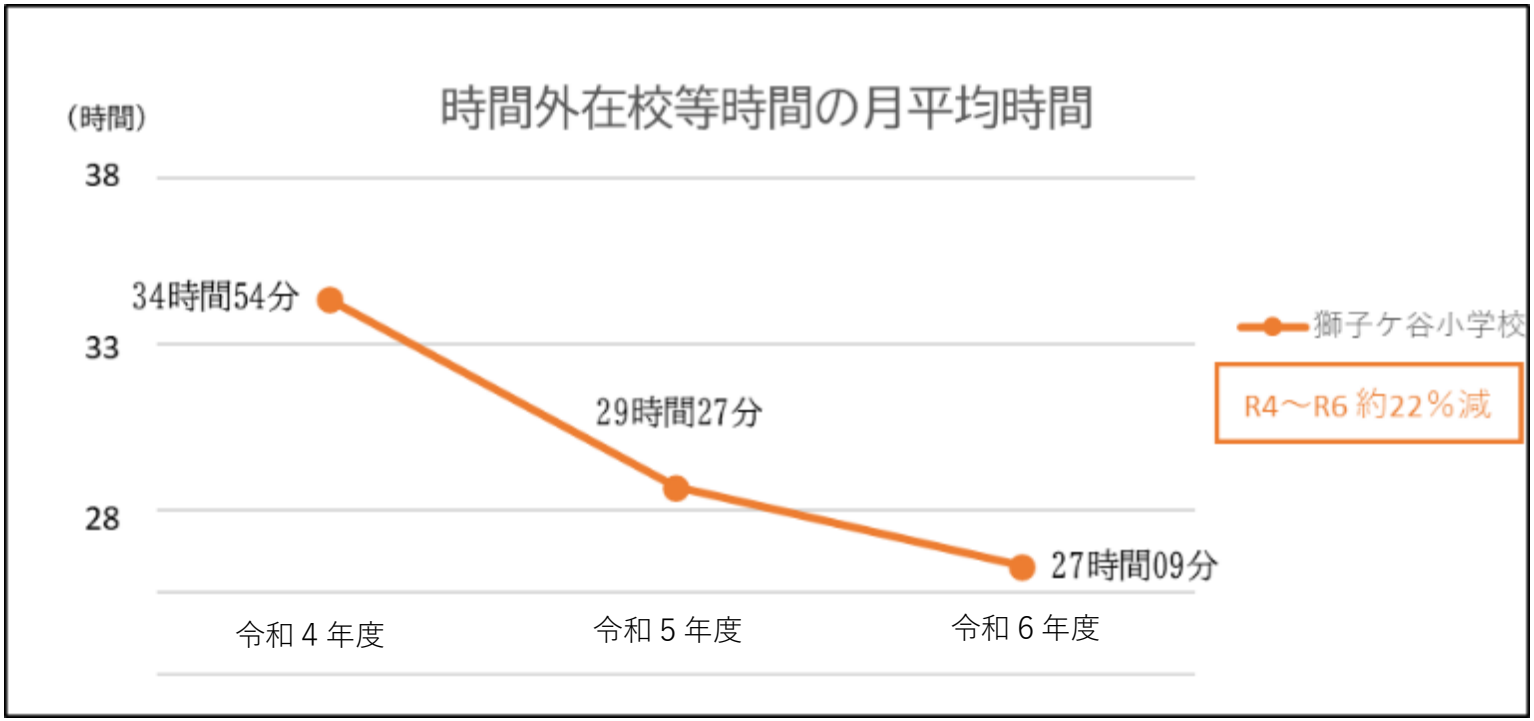
個々が作成した教材・ワークシートをPC・ロイロノートの共有フォルダに保存

⇒ 授業実践の有効活用　授業準備の効率化
（児童の学力向上）　（教職員の労働時間削減）

ICTを活用して思考を可視化

裁量ある時間が増えたと思う教職員の割合





	令和４年度	令和５年度	令和６年度
獅子ケ谷小学校	34時間54分	29時間27分	27時間09分

※「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時実現を目指す「持続可能な学校のあり方を探る実践モデル校」事業に公募した学校

横浜市における
「質の高い学び」と「持続可能な学校」の
実現に向けた取組について

横浜市教育委員会事務局

2025年６月

横浜市の概況について

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

◆横浜市立学校概況（令和７年５月１日現在（速報値））

区分	総数	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校		特別支援学校
					全日制	定時制	
学校数　（校）	505	336	144	3	9	8	2	13
児童生徒数　（人）	252,286	165,702	74,962	2,428	7,722	6,601	1,121	1,472
学級数　（学級）	10,462	7,188	2,535	101	215	171	44	423
教員数　（人）	19,659	12,088	5,425	203	847	677	170	1,096
職員数　（人）	1,848	1,252	390	16	89	72	17	101

※学校数は分校を含む。高等学校９校は実学校数。児童生徒数には、夜間学級の生徒数を含む。

横浜市の概要

面　積	438.23㎢ （R6.10.1現在）
人　口	3,769,584人 （R7.1.1現在）
世帯数	1,819,315世帯 （R7.1.1現在）

横浜市立小中学校及び義務教育学校の児童生徒推移

学校教育事務所

※18区の小学校・中学校を４方面の学校教育事務所が所掌

「質の高い学び」と「持続可能な学校」の実現に向けた取組について

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

①「持続可能な学校のあり方を探る実践モデル校」の設置

○目的
令和の時代における新しい学校教育のあり方を探る。
※モデル校間によるオンライン情報交換会や対面の勉強会、全市立学校を対象としたオンライン情報交換会等を実施

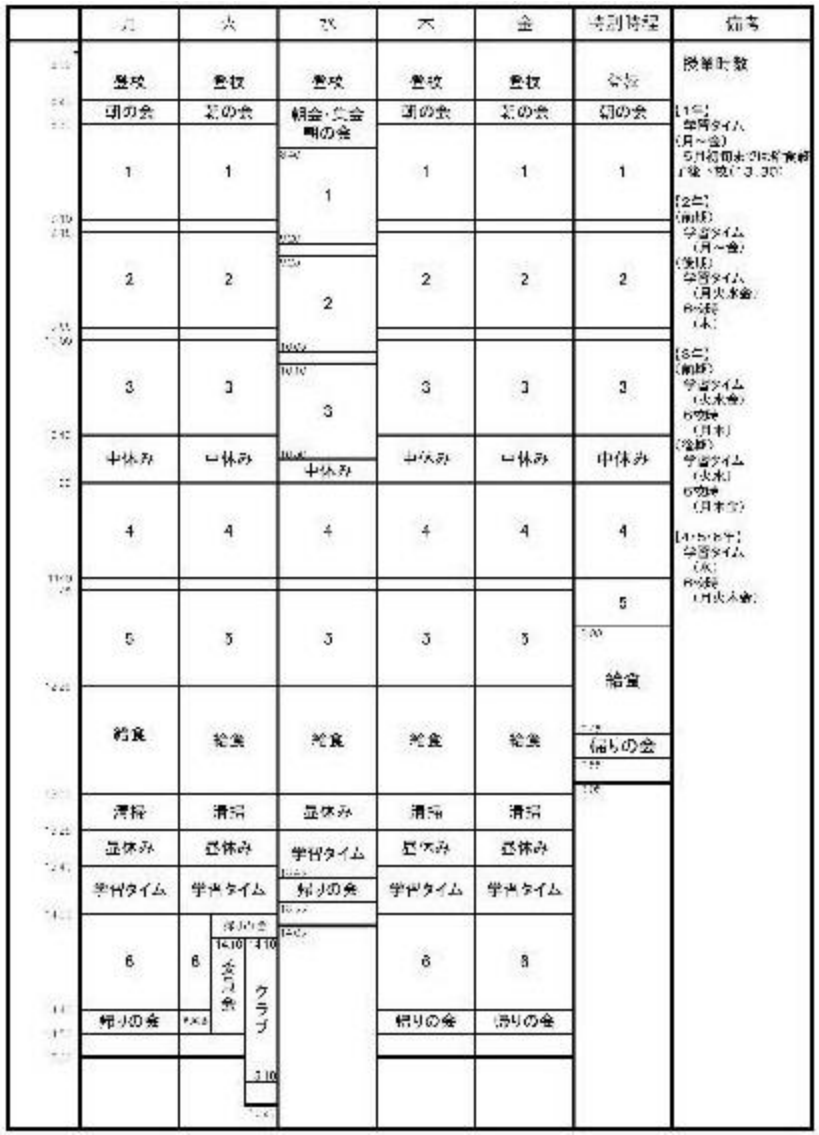
○モデル校（令和３年度開始）
令和３年度14校（小13、中１）
令和４年度20校（小19、中１）
令和５年度23校（小21、中２）
令和６年度30校（小25、中５）

○主な取組
①午前中集中型 40分×５コマ授業
※１コマを40分。午前中５コマ実施。高学年でも15時には下校。
②短時間モジュールの柔軟な活用
※１コマは原則45分。短時間モジュールを活用し、午前中５コマ実施。高学年でも15時には下校。

◆１コマ40分で午前５コマ授業に取組んでいるA小学校の主な成果

- １コマ40分授業の導入前と比較して、**毎日の下校時刻が30分程度早く**なり、**教職員の裁量ある時間を確保**することができた。
- **導入前の令和３年度と導入後の令和５年度の４月から６月の時間外在校等時間の平均を比較**すると、**８時間以上減少**している。
- 児童へのアンケートにおいて、**学習に集中して取り組めるようになったと回答した児童の割合は約９割。**

１コマ40分で午前５コマ授業に取組んでいるA小学校の日課表（例）



「質の高い学び」と「持続可能な学校」の実現に向けた取組について

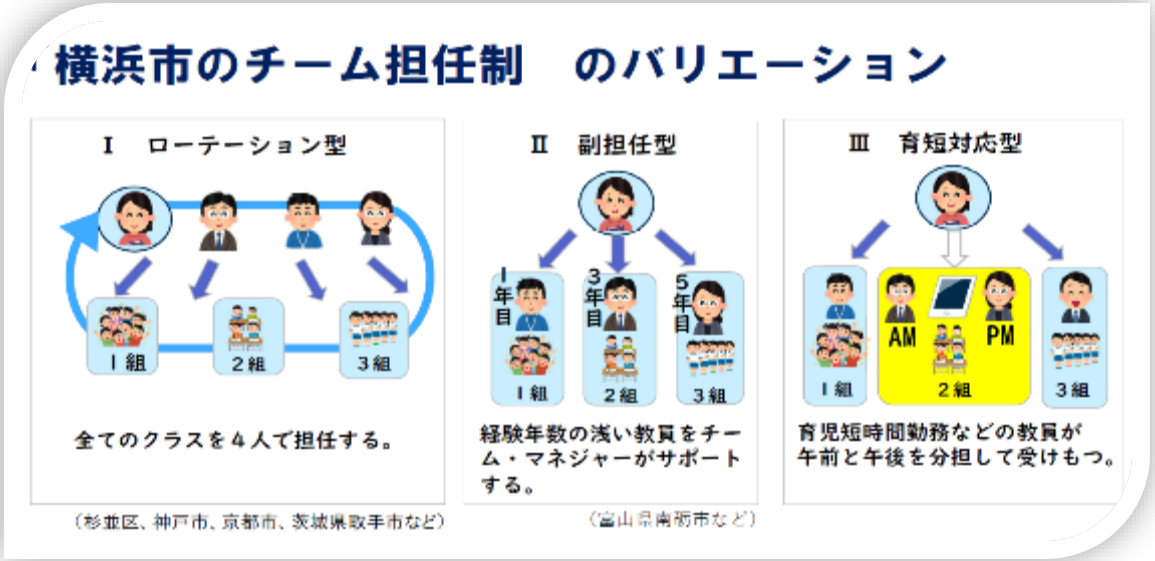
②チームで子ども一人ひとりを見守る仕組みづくり

「チーム学年経営」を小学校全校で展開し、さらに「チーム担任制」を試行校で研究

個に寄り添った教育効果

複数の目線

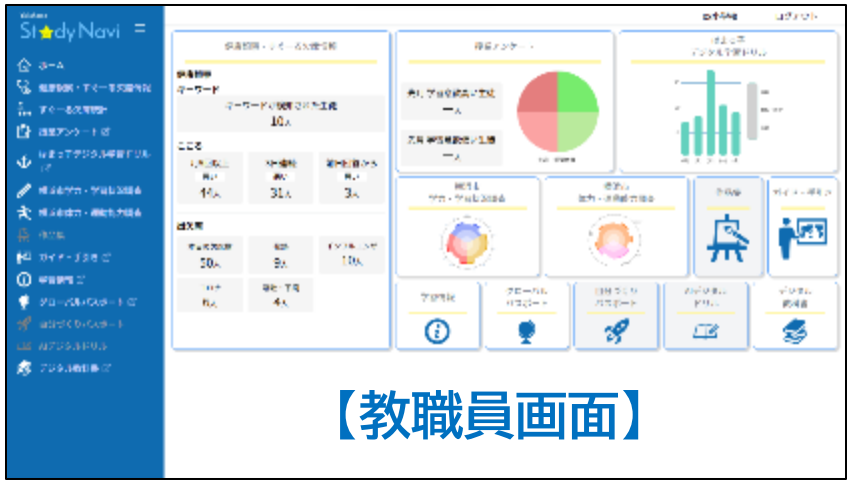
柔軟な働き方の効果



「質の高い学び」と「持続可能な学校」の実現に向けた取組について

③学習ダッシュボード（横浜スタディナビ）の活用

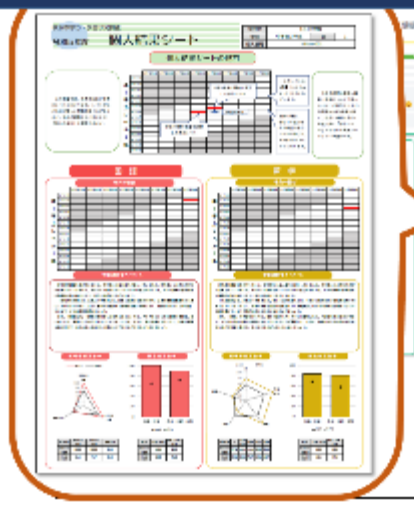
Yokohama StudyNavi



ダッシュボードによる可視化【教職員】

学力だけでなく、学習意欲などについて答える生活実態調査の結果とクロス集計して、閲覧可能

横浜市学力・学習状況調査



ダッシュボードによる可視化【児童生徒】

児童生徒の個人結果シートは過去のものも閲覧可能なので、児童生徒は自分自身の経年変化を確認しながら、学習を調整することが可能

次期学習指導要領への期待

①学校の裁量を増やす取組の一つとして、標準授業時数の弾力化や学校の特色に合わせた時間の創出を進めてほしい。
そうした新たな仕組みができれば、例えば、現在はモジュールで各教科等の時数を確保している部分について、どの教科にも当てはまらない子ども一人一人に応じた自己調整学習の創設や、探究学習の時数増などの取組に繋げていきたい。

②４０分午前５コマ制などの日課表の工夫により生まれた時間を教育の質の向上に有効活用しているが、これは大変有効。次期学習指導要領の下で、こうした取組がさらに充実した形で実施でき、余白を生み出せるよう、標準授業時数の弾力化にあたっては、例えば、教員に裁量のある研究・研修の時間を設けることができるようにしてほしい。

③全面実施までの取組として、一定の要件の下で、各学校で教員に裁量のある研究・研修の時間を設けるなど、柔軟な教育課程の編成を試行できるようにしてほしい。